



# 安行小だより

目指す学校像

安行小学校 10月号  
令和5年10月2日

よさを認め、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校（個の伸長 公の育成）

～伝統と地域と共に励みて進む安行小150年～

## お化粧なおし

校長 春川 嘉孝



夏休みから始まった校舎の塗装工事。12月1日の開校150年の記念日に合わせて猛暑の夏を乗り越え、校舎の塗装塗り替えが行われています。まもなく、覆いが外され、古きよき伝統を守り続けた南校舎がその歴史を下地に新たな「色」を表します。12月1日、150年めの安行小誕生日に向けてその色は輝いていくことと思います。学校の一年の折り返しのスタートを保護者、地域の皆様とともに踏み出せたらと思います。

様々な秋の中に「食欲の秋」があります。「給食だより」でもお知らせいたしました。10月16日は「世界食料デー」。1945年10月16日に国連食糧農業機関が創設されたことから、この日を1981年に国連が「世界中で起きている栄養不良、飢餓、極度の貧困を解決することが目的」として設定しました。

### 「からの食器の上にスプーンが1本。」

上の様子を写真で見たり、絵にして描いてみたりすると「きっと好き嫌いせず、残さずきれいに食べた」という感じになるのではないのでしょうか？

そこから、こんな言葉が続きます。

### 「最後の一粒までちゃんと食べたのではありません。 最初の一粒もない子がいます。」

これは、ACジャパンの広告キャンペーン（2022）の国連WFP協会（国連世界食糧計画）の作品の言葉です。

つい最近では、「今日を生きるための食料、8億人待ち」（国連WFP協会・ACジャパン）

そして、このようなコマーシャルも目にします。

### 「おいしいねっていうと、もっとおいしくなるね」（こども食堂支援センター・ACジャパン）

2030年が達成目標であるSDGsは、その取組は後半（折り返し）にはいりました。「食」は生きるうえで欠かせないものです。生きる活力、元気の源、気持ちも明るくしてくれるものです。十分な食事が得られない苦しみや悲しみ、そして、同じ「食事」を共に食べる「よさ」。世界食料デーにあたり、今一度「食」について考えるのも「食欲の秋」のような気がします。

「行事の秋。」10月13日（金）児童向け、14日（土）学校公開として「開校150周年校内音楽会」を実施します。先月の中頃より、各学年、各クラスから聞こえる音楽。今月の歌である「はじめようコンサート」の歌声を聞くと、気分がわくわくしてくるのを感じます。子供たち一人一人が自分の声を、音をしっかり出し、友だちの音と重なったとき、素晴らしい音楽が作り出されます。音楽を通して、学級や学年の仲間のよさを知り、互いに尊重し合える環境をつくってまいります。

校内音楽会（学校公開）の日は「お化粧直し」をした校舎と、音楽という素敵な文化にふれることで、新しい安行小学校を感じられると思います。